

平成26年度第1回花巻市総合計画審議会（会議録）

1 開催日時

平成26年7月18日（金） 午後1時30分～午後3時

2 会場

生涯学園都市会館 3階 第2・3中ホール

3 出席者

花巻市総合計画審議会委員17名：中村良則会長、佐藤良介副会長、
宮澤啓祐委員（代理伊藤隆規専務理事）、高橋勲委員、小原幸子委員、
藤沼弘文委員、佐々木博委員、伊藤博文委員、土岐紀一委員、大沼一夫委員、
佐藤淑憲委員（代理鎌田哲暢社会開発室長）、伊藤成子委員、尾美裕功委員、
佐々木一夫委員、似内英悦委員、小原宏委員、岩渕満智子委員
市側：上田市長、八重樫総合政策部長ほか全部（機関）・支所長
事務局：秘書政策課企画調整係（藤田課長ほか）

4 会議内容

【1 委嘱状交付】

新任委員5名に対し、市長から花巻市総合計画審議会委員委嘱状の交付

【2 開会】

（藤田課長） 本日の審議会は委員の過半数の出席により、花巻市総合計画審議会条例第4条第2項の規定に基づき、会議が成立することを報告

【3 市長あいさつ】

（上田市長） お忙しい中、市内の主要な指導的立場の皆様のご参集に感謝。昨年9月に10年間の長期ビジョンを策定し、本来であれば今年の4月から、3年間の中期プランを実施しなければならない。2月の就任以来、方向性を模索しながら作業を進めてきたが、現在まだできていない状況

中期プランの中身について、何をやってコストがどのくらいかかるのかを主要事業・財政見直しを通じて市民に示し、市だけではなく市民と一緒に考えていきたい。また、市の重要事項である市街地活性化や医療体制の維持など、主要事業に十分に反映されてはいないものもあるが、現時点の考えを示し市民の意見を聞きたいと考えている。

本素案については現状ベストではあるが完璧とは思っていない。皆様の意見をもとにより良い計画を策定していくため、貴重な意見を賜るようお願い申し上げます。

【4 会長あいさつ】

(中村会長) 今年度第1回目の審議会になるが、本中期プラン素案について、市民それぞれの立場から意見をいただくことになる。冒頭に重点戦略という長期ビジョンになかった項目が加えられているが、これからの市の進むべく基本的な方向性が示されていると理解している。この重点戦略を具体化していくための施策が適当なものであるか、建設的な観点で議論いただければ幸いである。

【5 説明】

(八重樫部長・藤田課長) 配布資料により、中期プラン(素案)について説明

【6 質疑】

(藤沼委員) 155Pに再来年の国体事業の記載があるが、予算が少ないように感じる。個人的にオリンピックの射撃競技誘致にも関わっているが、予算がないと誘致できない事情もある。財政が厳しい状況であると思うが、もっと予算を充実させてほしい。

(藤田課長) 掲載している金額は現在の状況で見積もったもので確定ではなく、状況の変化により今後の対応もあり得る。また、掲載しているのは市としての予算だけであるが、国体開催にあたっては、市内の各機関も相当額負担することとなる。

(佐々木一夫委員) 県立病院の統廃合により大迫診療所は現在無床化されているところで、患者数は増加し、他地域の病院を利用している現状である。また、大迫だけの問題ではないが、入院しての治療が受けづらいなど、地域医療体制への不満を感じている。

(佐々木忍部長) 大迫診療所については、残念ながら有床化の方向にはないが、矢巾に1,000床規模の病院ができるので、そちらで対応していきたいと考えている。医療体制が十分ではない状況は承知しており、現在作成中の地域医療ビジョンをもとに、医療・看護体制を充実させていきたい。

(佐々木一夫委員) 先日地区で交通事故があったが、病院への搬送に40分かかった結果、助かる命が亡くなった。救急救助体制について、どのように認識しているか。

(石崎消防長) 一部中部病院への搬送はあるが、原則としては直近の医療機関に搬送する規則になっている。花巻管内には7台の救急車があるが、仮に大迫地区に1台が出動中にもう1台の要請があれば、東和署や花巻北署から出動することになっている。

(小原委員) 地域婦人団体協議会では、「命と暮らしとふるさとを守る」というスローガ

ンのもと、子育て支援に取り組んでいるところであるが、会に対して予算的な支援をいただき助かっており、今後も頑張っていきたいと思っている。

(高橋部長) 子育て支援については、来年制度が変わる予定であり、現在制度変更に合わせて子ども・子育て支援計画を作成中のところである。婦人会の活動には大変感謝しているところであり、今後も地域と一緒に子育て支援を図ってまいりたい。

(土岐委員) 地域主体のまちづくりということで19年度からコミュニティ会議が始まったが、地域の防犯・交通など従来の縦系列の連携に加え、各地区の会議という横軸も加わった結果になった。それらをうまく統合する方策はあるか。

(八重樫部長) 各地区のコミュニティについては、条例を制定しているほか、本計画の長期ビジョンにおいて、市と一体となってまちづくりを進めることとしている。防犯・交通安全協会等の各支部がコミュニティに入っていることは承知しており、本計画に記載はないが、連携の仕方については検討していきたいと考えている。

(岩淵委員) 本計画に掲げる目指す姿実現のため、市民が果たすべき役割を地域住民に知ってもらうことが大事である。市民の「役所が変わらない」という発言を耳にするが、その発言自体が問題であり、もっと関心を持ってもらうようにしなければならない。

(八重樫部長) 本計画においては、市の役割に加え、市民や企業に期待される役割を明記したところである。市民においては一人ひとり違いはあるが、全体的に底上げしていきたいと考えている。

(伊藤委員) 子育て支援の前段階として、若い男女の出会い創出があると思うが、支援策はどこに記載されているのか。

(八重樫部長) 122Pの定住・交流の促進の取り組みとして、NPO等との連携による出会いの場創出・拡充を記載しており、現場の意見を聞きながら、今後も進めていきたいと考えている。

(伊藤委員) 脳卒中による死因が県内ワースト1位である現状について、食生活改善推進員協議会としては減塩活動に取り組んでいるが、市の方針は。

(佐々木忍部長) 元中部病院院長を中心に県南地域での対策会議を設置したところであり、食改協をはじめ県等と連携して対策を講じていきたい。大迫と東北大学が連携した脳

卒中対策の取り組みも承知している。

ほか、健康診断の結果通知について改良を検討しているところであり、注意喚起のため厳しい表現を用いるなど工夫していきたい。

(土岐委員) 学校教育について、平成17年より、地域の教育を活用する方針が示されたが、学校側の発信が少なく、地域イベントにも協力してやっているという姿勢が感じられる。本来、学校が主体となって行うべきものと思うが、その辺りが本計画には見えない。

(高橋部長) 教育方針については、各学校ごとに目標を設定しているが、周知について工夫が少ないと感じている。ほか、教員は人事異動があるが、先生が変わっても同じようにできるようにしていかなければならない。

(中村会長) 本計画の素案がとれるのはいつごろになるか。

(藤田課長) 現在、市民意見の反映のほか、財政見通しの見直しを行っているところであり、明確な時期はお示しできない。

【7 閉会】